

ご卒業おめでとうございます。この2年乃至4年の間、皆さんは多くのことを大妻女子大学で学ばれたと思います。いま、差し上げた「学位記」はその学びの証（あかし）です。大妻学院が110年に及ぶ伝統の重みをもって発給した、世界中どこでも通用するエビデンス、身分証明、パスポートです。どうか、自信をもって、胸をはって、堂々とこれからの人生を歩んで行ってください。

大妻学院の学祖 大妻コタカ先生は卒業式でいつも次のように言って卒業生を励まされました。「皆さんは大妻学院の魂を嗣ぐ後継者です。人格の尊厳と独立自営の気概をもって、しかも周りの人に愛され尊敬される、そういう人になってください」と。いま、大妻女子大学ではこれを「関係的自立」として教学の柱に据えているのは皆さんも先刻ご承知の通りです。自分の周りに<関係性>のネットワークを巧みに編集しながら、その結節点において<自立性>自己を存分に輝かせて生きて行きなさいというのがその骨子です。

コタカ先生の教えで、卒業生の皆さんにご参考になる言葉がもう一つあります。人生で大事なものは、「高い理想、すぐれた意志、それを成就する技能と忍耐」という教えです。「目標は小さくてもよい。一つ一つ達成していくことが大事だ。そのうち目標はだんだん大きくなる。そうやって人は成長する。そのためには理想は高く、意志は強固でなければならぬ、そして、そのために必要なのは技能と忍耐、それだけだ」ということです。「技能」は日進月歩です。毎日が学びです。皆さんが大妻で学ばれたのは「その技能を学ぶための技法」です。これからの永い人生、その「学びの技法」を駆使して「技能」を磨き続けて行くのです。大事なものは、最後に挙げた「忍耐」です。アダム・スミスはその著『国富論』のなかで、こう言っています。「失敗してもよい、不手際であってもよい、それに耐える力をもつことこそが大事なのだ」と。皆さんが大妻で身につけられたもののうち最大のものはこの「耐える力」「忍耐」だったと言ってよいでしょう。これは皆さんの生涯の宝となるはずです。大妻コタカ先生ご自身も一言で云って「努力・忍耐の人」でした。皆さんもこのコタカ先生の魂を嗣ぐ後継者となってください。

皆さんのうち大多数の方はいずれかの会社に就職されると思います。就職しても始めから大きな仕事をさせてもらえるわけではありません。むしろ最初は詰まらぬと思うような仕事が多いことでしょう。しかし、会社に「詰まらぬ仕事」などあるはずはありません。どんな小さな仕事であっても、必要だからこそその仕事はあるのです。だから会社は給料を払うのです。問題は、「仕事」そのものに意味や価値があるのではなく、仕事をする人の「働き」によってその「仕事」に意味や価値が生まれるのだということです。このことを確り頭に入れて、「小さな仕事」「詰まらぬ仕事」と馬鹿にすることなく、真剣に「忍耐強く」その「仕事」に取り組んでください。

次に、コタカ先生の「感謝の心」についてお話します。コタカ先生はいつも仰っていました。「われわれは一人で生きているわけではない。周りの人はもちろん、森羅万象あらゆるものの恩恵を受けて“いま”を生かされている。そのことへの「感謝の心」をけっし

て忘れるな、忘れないだけではない、ささやかであってもよい、何らかの形でその恩に報いなさい。お返しするものがないなら言葉だけでもよい、“ありがとう”“すみません”“おねがいします”、この三つの言葉だけでもきちんとと言える人になりなさい。それさえできるなら、あなたは必ずや職場の皆さんから愛され大事にされる人となるでしょう」と。

最後に私から餞の言葉を贈ります。それは「幸運の女神は、ときに禍の仮面を被って現れる」ということです。禍・災難が来たと思って逃げ回っていては永久に幸運の女神には出会えません。正面からぶつかるのです。そうすれば「禍の仮面」がポロッと外れて、その陰から幸運の女神がニッコリと皆さんに微笑みかけてくることでしょう。「艱難汝を玉にす」という言葉があります。「若いときの苦勞は買ってでもせよ」とも言われます。どうか、苦勞を苦勞ともせず、逞しくそれを乗り越えて行って下さい。

いよいよ最後となりました。ご健康を祈ります。皆さんの前途が幸せであることを願っています。ごきげんよう。

2017年3月19日

学長 **花村 邦昭**